



日光山金神社祭礼絵巻
弘化四年(1847)
二荒山神社の付け祭りの様子を描いたもので、一番の馬場町から三九番の小伝馬町まで、三九の町内が八種の山車屋台・練り物を練り出し、練り物が描かれている様子が見られます。江戸の天下祭りには、敵する祭礼であったことがわかります。

日光海道
日光道の松並木。この松並木は本郷町・新石町・伝馬町と通分の賑わいが感じられます。

伝馬町
伝馬町の賑わい。伝馬町の先火見障子があつた所町。御坂の先寺と至勝寺通りに男体山別名黒髪山が見えます。

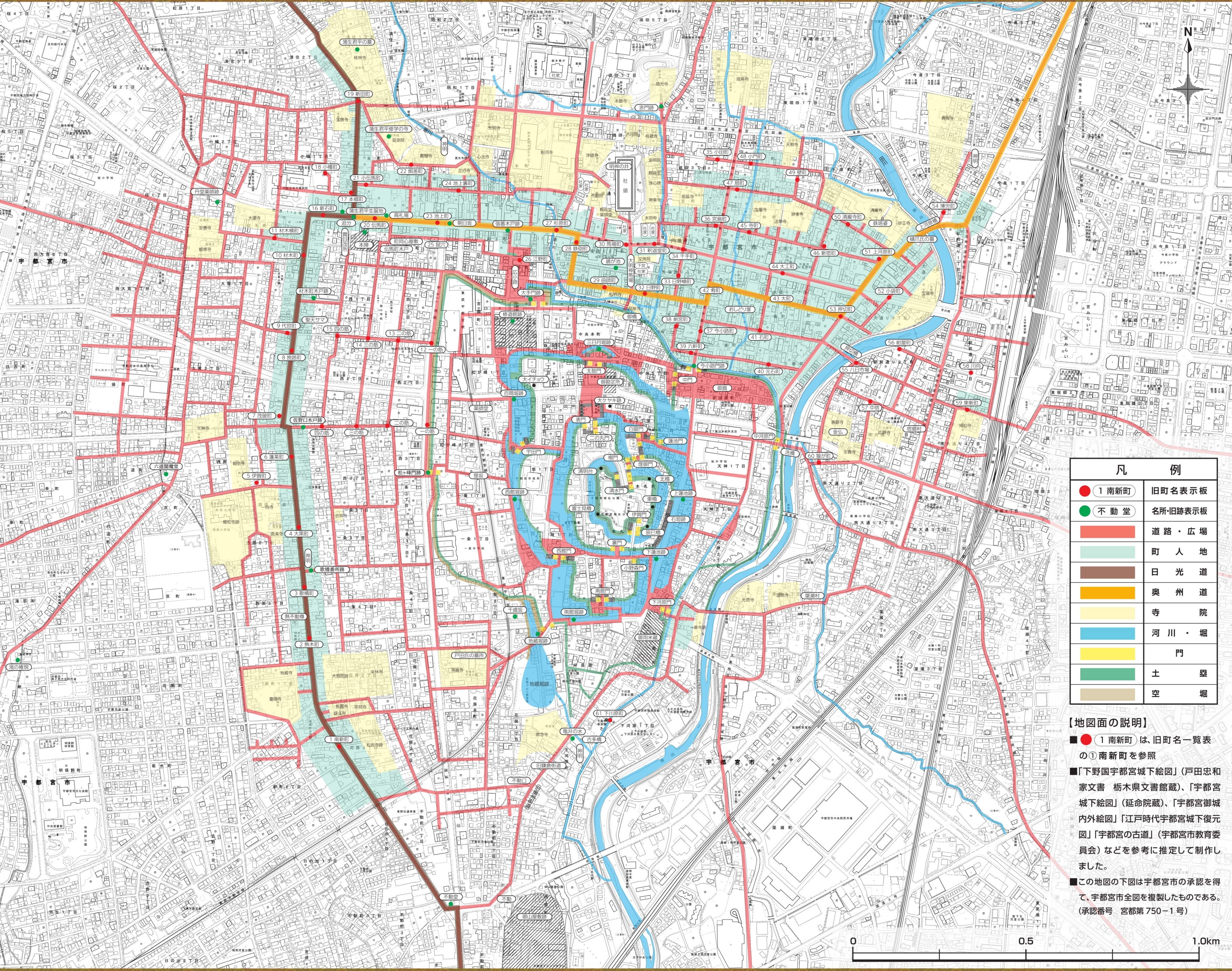
問屋場
日光道、奥州道の通分。右に桂林寺と至勝寺通りに男体山別名黒髪山が見えます。

皮破町
筋道の、伝馬町戸近くにある古筋を扱う商家。黒髪山の冠は、火事の際に強い大石が貼られています。

運米町
黒板橋に見越した松がある「三ツ木の茶屋」。町内には見越子が三ツ木にある。城下町の一番は火の用心。山が遠望できます。

六道
壬午年、榎木・榎木への通分。鬼なり、布い脚履様。大立山の向こうに壬午山が遠望できます。

江戸海道
松並木が新見戸の賑わい。松並木が新見戸の賑わい。松並木が新見戸の賑わい。松並木が新見戸の賑わい。



| 凡 例 | |
|---------|----------|
| ● 1 南新町 | 旧町名表示板 |
| ● 不動堂 | 名所・旧跡表示板 |
| ■ | 道路・広場 |
| ■ | 町 人 地 |
| ■ | 日 光 道 |
| ■ | 奥 州 道 |
| ■ | 寺 院 |
| ■ | 河 川・堀 |
| ■ | 門 |
| ■ | 土 壘 |
| ■ | 空 堀 |

【地図面の説明】
 ■● 1 南新町 は、旧町名一覧表の①南新町を参照
 ■「下野国宇都宮城下絵図」(戸田忠和家文書 栃木県文書館蔵)、「宇都宮城下絵図」(延命院蔵)、「宇都宮御城内外絵図」[江戸時代宇都宮城下復元図]「宇都宮の古道」(宇都宮市教育委員会)などを参考に推定して制作しました。
 ■この地図の下図は宇都宮市の承認を得て、宇都宮市全図を複製したものである。(承認番号 宮都第750-1号)

宇陽略記 文久(1861)
戊辰戦争で失われてしまった幕末期宇都宮城下の様子を、知る貴重な資料。寺社や地名の説明、町内の様子や名所が描かれているほか、宇陽略記として、宇都宮の歴史も書かれています。「宇陽」とは宇都宮城下を意味し、古くから好んで使われています。昭和になると宇都宮市の郊外を、陽東・陽西・陽南・陽北と呼ぶようになり、学校の名前にもなっています。十二の絵が何処か、探してみませんか。

大明神石階より橋門を仰げる図
橋門は、安政六年(1859)に再建しましたが、一〇年の戊辰戦争で社殿と共に焼失しました。

二荒山馬場祭礼の図
石段は、弘化三年(1846)に古着商中(緑色)が寄進しました。現在と変わらないうたすまします。

志免しが原花盛りの図
桜が満開の下野の原の辺り。城は、東勝寺にあつたおよりの鐘一門。前と下町に通分をなしています。

池上橋
左に伸びる朝日坂。釜川の大谷の、雁崎と川端に並ぶ大石垣の威。現在は都橋と名前を変えています。

池上町
将軍の日光社参の行列も、ここから入城しました。騒がれ、武家地から大門への参道です。

御山屋敷
城の離れ屋敷。筑波山堀が町をぐる宇都宮で一番の景勝地にあり、初午には町人たちが開放されました。

